

# TOPICS

## 新駐日大使に ステイアス氏

六月に退任したブルース・ランキン駐日大使の後任に、バリー・C・ステイアス(Barry C. Steers)通産省次官補(対外商務局・国際マーケティング担当)が任命された。ステイアス氏(写真)は、一九二七年一月十五日、オンタリオ州ロンドン生まれ。ウエスタン・オンタリオ大学(経済学・政治学専攻)を卒業。



一九五七年、通産省対外商務局に入ってから、シンガポール

(商務官)、アテネ(商務担当二等書記官)、テルアビブ(同一等書記官)、ニューヨーク(領事兼商務官)と各地で勤務。通産省国際金融部部長、同市場開発局長をへて、駐ブラジル大使、ニューヨーク総領事を歴任、一九七九年に通産省次官補(対外商務局及び国際マーケティング担当)に就任した。

今年六月には、ラムリー通産省

貿易担当国務大臣に同行して日本を訪れた。マータ夫人との間に三人の子供がいる。

義足のランナー、テリー君が死亡  
がん研究に四十億円集める

がん研究のために資金を集めようと、がんで片足を失いながら五千五百キロも走り抜いた二十二才の青年テリー・フォックスが、入院中のロイヤル・コロンビア病院(プリティッシュ・コロンビア州ニュー・ウエストミンスター)で死亡した。

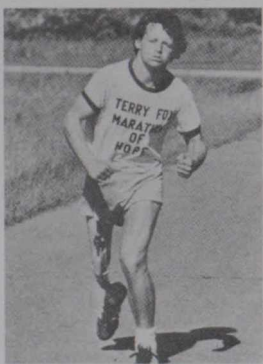
テリーが義足の右足をひきずるように、カナダの東端ニューファンドランド州セント・ジョンズから「マラソン・オブ・ホープ」(希望のマラソン)のスタートを切ったのは昨年の四月十二日。太平洋側のプリティッシュ・コロンビアまで八千七百キロを走って、十万ドルを集める計画だった。しかし、予定のおよそ三分の二にあたるオンタリオ州サンダー・ベイに達したとき、テリーは残りのマラソンを断念しなければならなかった。がんが肺に転移して、これ以上走れなくなったのである。がんはその後胃まで広がり、医者はインターフェロンによる治療を

始めた。しかし症状は悪化するばかり。六月十九日には肺炎を併発して病院にたづぎ込まれ、そのまま不帰の人となった。

テリーの死去を悼んで、連邦政府は国旗を半旗の位置に掲げ、また家族による葬式に合わせてカナダ各地で追悼式が行われた。カナダ政府が高名な政治家以外の死に半旗を掲げるのは異例のことである。カナダ政府はまた、テリー・フォックスの不屈な精神を記念する切手の発行も決めている。

テリー・フォックスが呼びかけた「がん研究基金」に寄せられた募金は、当初の目標をはるかに上回る二千三百万余ドル(約四十一億円)。そのうちオンタリオ、プリティッシュ・コロンビア両州政府が、それぞれの献金額百万ドルを両州でのがん研究所に使うほかは、すべてカナダがん研究所が管理して、いろいろながん研究に割当てられることになっている。

またテリーの死後、トルドー首相は五百万ドルのテリー・フォックス記念奨学基金の設置を発表、



The Citizen

毎年、成績優秀で保健、スポーツ、地域サービス分野で勉強しようという学生二百五十人に奨学金を

授与することになった。

カナダがん協会では、アマチュア・スポーツ組織、ホテル・チェーンおよび連邦政府の協力を得て九月十三日、テリー・フォックス追悼マラソン大会を開く。全国六百か所以上の都市で、三百万をこえる人々が参加するものと予想されている。

電話網にテリトンを接続  
大規模なビデオテックス実験

カナダ最大のビデオテックス(文字図形情報システム)現場実験が、このほど電話会社ベル・カナダと連邦通信省によって開始された。これはベル・カナダ社の既存の電話網と通信省が開発したテリトン・システムを組み合わせ、電話網を通じて届けた各種の情報を家庭のテレビに映し出せるようにするもの。現場実験はVISTAと呼ばれる、ベル・カナダ社が八百五十万ドル、通信省が二百五十万ドル投入して、今年から来年末にかけて行う。

実験の対象は、将来のユーザーを代表する形で選ばれたトロントとケベック市の五百世帯。参加者は、民間および政府の諸機関から提供された、旅行日程、ニュース、気象、スポーツのスコア、株式市場、買い物情報、娯楽ガイド、案内広告など七万ページにのぼる情報をテレビ画面に呼び出すことができるという。

連邦政府では、そのほか、CN

CPテレコムユニケーションズ社およびオンタリオ州政府と共に、テリトン端末による通信にレーザー光線を利用できるかどうかというテストも実施している。CNタワーのテリトン端末からトロント市内の公園におかれた別の端末にレーザーでカラーの図形を伝達するこの実験は、実施期間二、三か月を予定し、データ通信バス(行路)のひとつとしてその可能性が検討される。

障害者にも旅行の便宜を  
カナダ旅行業界が態勢づくりに

「カナダ旅行業界の今年の課題は、旅行を希望する身体障害者の受け入れ態勢づくりだ」として、このところ旅行代理店はじめ業界関係者は張り切っている。

カナダでは、三年前にオンタリオ州でASSIST(特別旅行者に関する専門サービス業者組合)が設立され、メンバーの旅行代理店や航空会社などが地道な工夫を重ねてきた。

鉄道では、昨年四月、政府の運輸委員会がカナダ鉄道VIAに対し、介助者なしで旅行できる障害者に乗車を認め、全国の主要十三駅では駅員が車イス利用の障害者に手を貸して列車に乗せてあげるよう勧告した。これを受けて、VIA鉄道は千八百万ドルの五か年計画を作成、点字や車イスの扱い方を駅員に指導したり、駅の改造に取り組んでいる。車イスの自動